

調査対象地（住所）：東京都渋谷区

（北緯：35度 40分 41.86秒 東経：139度 42分 21.89秒）

旧版地形図



1931年

位置図



航空写真



土地条件・治水地形分類図



地形地質の概要

土地条件区分 1	人工地形/盛土地・埋立地	治水地形分類区分 4	-
産総研地質区分 2	後期更新世-完新世(H)の海成または非海成堆積岩類	表層地盤-微地形区分 5	ローム台地
		標高 6	25.8 m
土地利用区分 3	道路用地(1994年)	傾斜角 7	1°未満
		傾斜方位 7	平坦

出典： 1 国土地理院-数値地図25000（土地条件）H25発行版 2 産業技術総合研究所-1/20万シームレス地質図 3 国土地理院-数値地図5000（土地利用） 4 国土地理院-1/25,000治水地形分類図
 5 防災科学技術研究所-J-SHIS 地震ハザードステーション 6 国土地理院-地理院標高API（5m、10mメッシュ標高） 7 国土地理院-基盤地図情報（10mメッシュ標高）
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、2万5千分1土地条件図、数値地図25000(土地条件)、数値地図5000(土地利用)及び基盤地図情報を使用した。(承認番号 平28情使、第373-5号)

住宅地盤の診断結果

普通～不良

盛土・埋土共に、締め固め状態。経過年によって地耐力は異なります。低地への盛土の場合長期的な沈下の問題が起こります。また、水部の埋土は緩く軟弱な状態になっていることが多いです。

判定基準

良	地盤の成因、分類から、住宅地盤に適していると判断される地域
やや良	地形分類上、地耐力に問題は無いと判断されるが、地盤の成因より支持地盤の連続性が懸念される
普通	台地斜面や台地上の浅い谷、低地の盛土等に分類され、地耐力にはほとんど問題はないが、下層地盤の傾き、沈下、降雨時の排水などについて懸念される
やや不良	地形分類上、一般に低地とされる区域、粘土、砂層の軟弱地盤から構成され、住宅の基礎補強工事が必要となる場合が多い
不良	地形の成因、分類から住宅地盤に不向きな地盤
対象外	一般に頻水地形、地すべり地、火山地形など宅地として利用しない土地

判定結果の取り扱いについて

- ・判定は、国土地理院発行の土地条件図、治水地形分類図を基に、独自に作成したものです。判定結果の精度については、ホームページでご確認下さい。
- ・判定に標高値は考慮していません。海抜ゼロメートル地帯、及び河川、海岸線に近接する地域では浸水被害に注意して下さい。

本レポートの変更・加工・複製・販売を禁じます。（本レポートを報告書の一部に使用する等の2次利用を禁じます）
 本レポートをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。